

。 **第1段階：全体的な概要** (第3段階まであります。順次アップします。)

嬉野文化再生プラン (仮題)

— 子どもと大人が共に生きる、生き生きとしたまちへ —

1. 基本理念：

「暮らしの中に文化を取り戻す」
嬉野の豊かさは、温泉やお茶だけでなく、
そこに息づく人々の知恵、手仕事、語らいの中にあります。
しかし、近年その文化の灯は薄れ、若い世代の心が離れ、
退職者は静かに暮らしを閉じ、地域に空白が生まれました。
私たちはこの地に再び、
「つくる」「学ぶ」「分かち合う」という文化の循環を取り戻したい。
それがこの「嬉野文化再生プラン」の原点です。

2. ビジョン：

「暮らしと文化が響き合うまち、嬉野」
子どもが学びながら地域と関わる教育
退職者が知恵と技を次世代に伝える生涯活動
移住者が新しい感性で地域を再発見する創造の場
それぞれが分断されるのではなく、
“世代と地域をつなぐ文化のネットワーク”を育てる。
観光地としての嬉野ではなく、
「暮らす人が誇りを持つ嬉野」へ。

3. 三つの柱 (文化再生の方向性)

(1) 文化 × 教育

学校だけではない、地域全体が子どもの学び場となる。
職人の手仕事体験、語り部による地域史、音楽や演劇などの文化活動を通して、
「地域に生きる力」を育てる。

(2) 文化 × 経済

文化が経済の“飾り”ではなく“基盤”になる。
地域ブランドの創出、地元作家や生産者を支えるマーケット、
空き家・空き店舗の再利用による文化発信の拠点づくりを推進。

(3) 文化 × コミュニティ

世代を超えた居場所づくり。
退職者、子育て世代、移住者、学生、障がい者など、
あらゆる人が自然体で関わり合える空間と機会をつくる。

4. 取り組みの方針

1. 地域発案・行政支援型のプロジェクト
 - ・「誰かが決める」ではなく、「みんなで作る」方式
 - ・各地域が自主的に企画を立て、行政が制度的に支援
2. 文化と生活を結ぶ小さな実験の積み重ね
 - ・小規模でも、生活に根ざした動きを大切にする
 - ・成功例を広げながら、地域ごとの特色を活かす
3. 情報発信と共感の輪
 - ・SNSや動画を活用して、市民自ら発信する
 - ・「うれしの文化日記」「うれしの暮らし通信」など、物語の共有

5. 期待される成果

- ・若者が「ここで何かを始めたい」と思える街に
 - ・退職者が「まだできることがある」と感じられる地域に
 - ・市民全体が「自分たちの文化」を誇りとして語れるように
- それは、大きな施設を建てるのではなく、
一人ひとりの暮らしが“文化”になること。

6. 結びに

嬉野は、再び人と文化が呼吸するまちへと変わります。
古いものを守りながら、新しい息吹を吹き込む。
その両方があるからこそ、嬉野は“未来のふるさと”として輝けるのです。

「文化とは、人の心に宿る光です。
その光を、もう一度この町にともしましょう。」

以上。
デローラ。